

【協働の評価】

協働で進めて いきたい理由	若年層が参加してみたい多世代交流事業のアイデアを取り入れるとともに、地域に根差した学生団体のノウハウを活用し、魅力的な多世代交流事業の展開が期待され、行政課題の解決につながるため。
協働の 成果・効果	【協働の成果目標】 ・市民の視点に立った事業実施につながる。 ・多様なイベント等を展開する学生団体と協働することで、SNS 等を活用した周知、若い世代の興味を引くデザインのチラシの作成等あらゆる場面での効果が期待できる。 ・事業実施のために、若い世代が関わることで、必然的に多世代交流の機会を創出する。 ・若い世代が地域の課題に触れることができ、学生の声やアイデアが市政に反映できる。
	【達成できた点】 ・スマホ教室では参加者の視点に立ち、講義形式によるものではなく、それぞれの質問に答える形式で実施した。参加者からのアンケートでは「分からない事が自由に聞けてとても勉強になった。」「若い皆様とのコミュニケーションはとても楽しかった。」という感想をいただき、会話を通して交流が生まれる形式で実施できた。 ・スマホ教室では多様なイベント等を展開する学生団体のネットワークを活用し、地域住民が利用しやすい会場で実施できた。 ・スマホ教室の参加者からのアンケートでは満足度が、5段階評価のうち「とても満足」「満足」が97.1%を占め、「次回も参加したい。」「またこのような機会があると嬉しい。」という感想を多くいただいた。 ・老人福祉センターにおけるイベントのうち、そば打ち教室では募集後即日定員に達し（8名）、小学生から高齢者までが協力して作業し、できあがったそばを一緒に食べることを通して交流が生まれた。 ・事業の実施で、多世代交流の機会を創出した。 【達成できなかった点】 ・老人福祉センターにおけるイベントのうち、定員なしで募集したeスポーツ・昔遊びは高齢者の参加者数が数名であり、高齢者にとって魅力のあるイベントとなっていなかった。
相互評価 ※上手くいったこと と問題点・課題など	【事業実施前】★3 ○市 ・事業目的、スケジュール等をしっかりと話し合うことができた。 ○団体 ・事業目的、スケジュール等をしっかりと話し合うことができた。
	【事業実施中】★4 ○市 ・定期的に打合せを行いながら、役割分担に基づき進めることができている。 ・イベントの内容を検討していく中で、多岐にわたるアイデアをまとめきれず、決定に時間を要したため広報が遅れることがあった。 ○団体 ・役割分担し、円滑な連絡体制を築けている。 ・イベントに使用するモニターが、発送者の手違いで届かなかった。 ・チラシを期限までに作成できないことがあった。
	【事業終了時】★5 ○市 ・スマホ教室を今後も開催してほしい、という声を多数いただいた。学生が講師を務めることで、参加者は孫と話すような雰囲気、気軽に質問していた様子だった。参加者と学生のやり取りは単なる質疑応答ではない交流が生まれ、接点を持てたことに喜びの声が聞かれた。 ・老人福祉センターでのイベントでは、いままで試みのなかったeスポーツを実施できたが、高齢者の参加者は1名だった。eスポーツという言葉のハードルが高かったことや、eスポーツに関心のあるコミュニティへの積極的な広報が必要だったと感じた。 ○団体 ・スマホ教室は今後も開催してほしいとの声が多く聞こえた。 ・スマホ教室やイベント実施時には、多世代交流が目的であることを参加する学生が共通認識をもって取り組んでいた。 ・締め切りを失念することがあったが、相互に進捗確認をして進めることができた。
今後の展望	・スマホ教室のニーズが強くあることを認識し、次年度も継続していきたい。今年度よりも多くの方に参加してもらえるよう実施場所や周知の期間を見直していく。 ・スマホ教室以外にも多世代交流の機会を創出する。